

日退教通信

No. 350

2014.4

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館5F
発行責任者 竹田邦明
TEL 03(5275)2197 FAX 03(5275)2081
Email nitralkyo@gmail.com ホームページURL <http://www.nitralkyo.com>

第5回役員会・第2回 ブロック代表者会議

— 3月13日に合同で開催し、情勢報告・分析を議論して素案を深めました。 —

5月連休明けに、総会議案を各単会に送付します。

活動の基調（素案）は、左記のとおりです。

1 安倍政権の「戦争のできる国づくり」路線に反対し、集団的自衛権行使容認・自衛隊海外派兵に反対する。特定秘密保護法の廃止を求める。憲法改悪を許さず、「戦争をさせない1000人委員会」（各地で）に積極的に参加する。

2 政治的変革を求め、2015年の統一地方選挙を中心に当面的自治体首長・議員選挙においては推薦候補者の当選をめざしてとりくむ。

3 辺野古新基地建設反対、普天間基地撤去・海外移設の闘いにとりくむ。

4 原発の再稼働に反対し、脱原発社会をめざす。

5 東日本大震災「被災者」、原発震災「被災・被害者」への生活保障・賠償を早期に行わせる。教育再生実行会議の「教育改

革」に反対する。

7 年金・医療・介護等の社会保障制度や税制改善を求める。退連・地公退と共に運動にとりくむ。

8 安倍政権「3本の矢」政策やTPP参加が私たちの生活を脅かすことを明らかにする。

9 「東アジア共同体」構想を支持し、国際交流、連帯活動をする。

10 会員の親睦・交流を深め、生きがいを求める活動をすすめる。

日退教ホームページ

「日退教」と漢字で入力するだけで簡単に検索できます。各単会の情報も掲載していますので、発行したら日退教に1部郵送して下さい。

災害を乗り越え連帯を！ 東北初中高級朝鮮学校(仙台市)に激励カンパ

3月21日、仙台は大雪でした。「卒業祝賀会」の冒頭、日退教の西澤会長と前野宮城退教会長、酒井事務局長は、子ども・保護者が見守る中、玄唯哲（ヒョン・ユチョル）校長に激励カンパを手交しました。

東北初中高級朝鮮学校は、東北大震災の際に、学校を解放し教職員一丸になって地域住民の救援・援助にあたりました。しかし、校舎も大きな被害を受けていたため建直しになり、取り壊しの費用補助は仙台市から出たものの、いざ建築になったら補助金が打ち切られました。訪れた時にはまだ更地、子どもたちは寄宿舎を改造して勉強していました。こうした中、教職員・保護者から日退教会員への熱い連帯へのお礼が口々に述べられました。カンパをして下さった多くの会員の皆様に心より感謝いたします。



玄唯哲校長と西澤清会長



小学校の卒業生

今後の東アジア海外研修旅行

2014年から4年間、東アジア研修旅行を実施します。

今年度から、期間をほぼ半分に短縮して参加しやすくしますので、是非、会員の皆様は、家族・友人と一緒に参加してみませんか。日退教ならではの特別企画です。

なお、今年度の「3つの世界遺産」の旅（詳細）については、次号（351号）と総会時にお知らせします。

2014年10月下旬（4泊5日）

— 交流と3つの世界遺産を巡る旅 —
西安、洛陽、少林寺、伝統芸術の鑑賞

2015年10月8日前後（3泊4日）

— 朝鮮に対する日本の侵略を学ぶ旅 —
独立記念館、閔妃墓参、浅川巧共同墓地、安重根記念館、西大門刑務所、景福宮、タプコル公園、ナムムの家（日本軍「慰安婦」歴史館）、伝統芸能の鑑賞

2016年10月下旬（3泊4日）

— 辺境の地の世界遺産を巡る旅 —
敦煌、莫高窟、日牙泉、鳴沙山、石包城、城堡遺址

2017年10月上旬（4泊5日）

— 中国に対する日本の侵略を学ぶ旅 —
南京虐殺記念館、盧溝橋戦争記念館、瀋陽9.18歴史博物館、ハルビン731部隊展示館、安重根記念館（ハルビン駅に2013年末完成）
上海・南京・北京・瀋陽間は国内航空機を利用する予定。

働く者を苦しめるアベノミクスとは何か

安倍首相や「お友達内閣」の失言や妄言が重なっても、安倍政権の支持率はいままでです。不思議な現象です。マスコミなどによれば、安倍政権の経済政策（アベノミクス）が「目くらまし」になっていることがうかがわれます。

基礎編

「経済のすべて」を動かすのは需要と供給のバランスです。

デフレでは、「カネ」の動きが止まり、商品が過剰になり在庫が増えます。作っても売れないから企業の生産は遅退します。

デフレを回復する王道は内需拡大です。GDPの60%は個人消費です。人々が「カネ」を多く使えば景気が良い。商品の売れ行きが良く、企業は設備投資をしてさらに生産を拡大します。

そのため、その要となる労働者の雇用の安定、賃金の引き上げと安心して暮らせる高齢者生活をと私たちは主張してきました。

これに対して、「カネ」をふんだんに市場に放出すれば（銀行に渡せば）内需は拡大するというのが安倍政権の考えです。「大規模な金融緩和」で企業に「カネ」が回れば、設備投資が増え、企業活動が活発になり経済が成長し、まず株主など富裕層に金が行き、それが次第に浸透し労働者の賃金が上がるといって「トリクルダウン」論に立っています。これを第1次安倍内閣では「上げ潮路線」と言っていましたが大震災津波の後で都合が悪くなつて入

れ替えたのですかねえ。今度「ポトリポトリとしたたり落ちる」ですか。

アベノミクスとは何か

アベノミクスとは、マスコミが「レイガノミクス」にちなんでつけた名称で安倍政権の経済政策を言います。前述のように金融・財政政策でデフレから脱却するというのが基本で無理矢理消費者に「カネ」を使わせようとするものです。従来1%だったインフレターゲットを2%とし、それを達成するまで、金融緩和をするもので、「インフレや増税になる前にモノを買おう」などと人々の「心理的期待感」を煽り、「カネ」を使わせようとするものです。

マスコミは、この手法を三本の矢に例え、第1の矢を「大胆な金融政策」、第2の矢「機動的な財政政策（公共投資の拡大）」、第3

の矢「成長政策」としています。

政府の言いなりの日銀の危うさ

日銀は、政府が5,500万円を出資している資本金1億円の独立した法人です。そもそも日銀は、明治政府が戊辰戦争で戦費調達のために、「太政官札・不換紙幣」をやみくもに発行し40%ものインフレを招いたことから、政府が勝手に「カネ」を発行できないようにするために、1882年に創設されたものです。ですから日銀の任務は「物価の安定」と「金融システムの安定」です。ところが、安倍首相は、銀行法を改正し「政府の介入を強める」と脅し、政府の言いなりにさせ、人事で黒田総裁を据え、大幅な財政出動270兆円（14年末まで）と、今後さらに追加するといふ金融緩和をさせました。

円安の正体・輸入「モノ」の値上がり生活を直撃

多量の円が市場に出回れば円は安くなります。もと

もと円高は、日本経済の成長よりも欧米より「比較的安全」として、投機家が円を買い入れたことにより生じたもので、若干の景気回復は安倍政権の政策というより、欧州のユーロ危機からの一時的安定やアメリカの景気回復・財政の若干の安定から来ているといえます。

その証拠に3月19日発言では、日本の貿易赤字は30カ月連続で、8,300億円となりました。これは、自動車など輸出産業は、海外に生産拠点を移している上に円安差益で「モノ」の販売数が増えなくても「カネ」は増えており、輸入産業は、原材料や中間製造物の数が増えなくても「カネ」は多くかかっているからです。

労働者の賃金は上がらない

賃金は、労働力の対価として支払われ、食費・住居費などの労働力の復元費、読書や音楽を聴くなど労働力の質を高める研修費、労働力を子孫に伝えて行く維持費などで構成されるもので、人権の一部に含まれる

ものです。ところが、新自由主義経済の下では、労働者の賃金は「コスト・原価」に入れられます。ですから「モノ」の値段を下げるために、労働者の賃下げ、リストラなどが平易に行われます。「世界一企業が仕事をし易い日本」を目指すアベノミクスでは、企業の内

部留保は増えるものの賃金は減らされます。財務省によれば企業の内部留保は304兆円(除・金融・保険業13年3月末)で現預金だけで202兆円(13年6月末)が蓄積されています。一方で14年1月の労働者の基本賃金は前年同月比0・2%減の23万8436

円と20カ月連続で前年を下回りました。危ない国債の値下がり・利上げ、デフォルトへの不安。日銀から市中銀行への融資を増やしても、市中銀行は企業の業績が拡大していなければ融資の先がありません。その場合、銀行は国

債を買って「利鞘」を稼ぐことになりません。13年12月末の国債残高は985兆円と過去最大を更新しています。この内、海外投資家は82兆円ですが、「際限ない財政出動」を国内で引き受ける余力のない場合は、外国人投資家を頼らざるを得ません。しかし、海外投資

日教組全国教研集会・滋賀に参加して ―子どもに批判する力を、自分を大切にすること―

日本退職教職員協議会 会長 西澤 清

天津の駅を降りると、冷たい風が吹き、雲は厚く天候は一変した。日教組教研集会は天候に恵まれない。明日はどうだろうか。1月23日、久々に教研部長会議

を傍聴させてもらった。38年ぶりの滋賀集会。琵琶湖を挟んでの会場確保、船、バス、鉄道と参加者の移動システムづくりは大変だったろう。まして直前に西武

系交通機関から非協力の申し入れがあったとのこと、東京教研のしっぺ返しのもりだらうが大人げない。全体集会是快晴。滋賀県体育会館は朝から満席で熱気に溢れている。この雰囲気は昔と

変わらない。不登校の子どもたちが結成したバンド「スリービーズ」のリズムで始まった集会、基調報告は「グローバル時代ににおける次世代育成成ビジョン転換の課題」(リヒテルズ直子さん)だ。内容は、1995年にユネスコの世界教育会議で採択され、日教組でも「21世紀ビジョン報告」で提言した「社会的パートナーシップ」のオランダでの展開だ。日本では、ほとんど実らなかった

提言が20年を経て型を創り出している。「①世界はお互いに相互に依存し合っている。②違いを認め合い自分分は全体のために何をしたいのか。③未来に向けて子どもたちをどうエンパワメントするのか」と命題を建て、「読み、書き、算盤」(3R)＋「シチズンシップ、協働、創造性、コミュニケーション、批判的思考」(5R)と彼女は提言している。しかし、教育は外的(政治的)要因が重要と、ワークシアリングの徹底しているオランダの例をあげたが途端に会場が冷えた。新自由主義では賃金を原価(コスト)として、商品の値下げや利益の確保の為に、労働者のリストラや賃下げを



全国教研の要綱

たろう。まして直前に西武系交通機関から非協力の申し入れがあったとのこと、東京教研のしっぺ返しのもりだらうが大人げない。全体集会是快晴。滋賀県体育会館は朝から満席で熱気に溢れている。この雰囲気は昔と

変わらない。不登校の子どもたちが結成したバンド「スリービーズ」のリズムで始まった集会、基調報告は「グローバル時代ににおける次世代育成成ビジョン転換の課題」(リヒテルズ直子さん)だ。内容は、1995年にユネスコの世界教育会議で採択され、日教組でも「21世紀ビジョン報告」で提言した「社会的パートナーシップ」のオランダでの展開だ。日本では、ほとんど実らなかった

提言が20年を経て型を創り出している。「①世界はお互いに相互に依存し合っている。②違いを認め合い自分分は全体のために何をしたいのか。③未来に向けて子どもたちをどうエンパワメントするのか」と命題を建て、「読み、書き、算盤」(3R)＋「シチズンシップ、協働、創造性、コミュニケーション、批判的思考」(5R)と彼女は提言している。しかし、教育は外的(政治的)要因が重要と、ワークシアリングの徹底しているオランダの例をあげたが途端に会場が冷えた。新自由主義では賃金を原価(コスト)として、商品の値下げや利益の確保の為に、労働者のリストラや賃下げを

行うが、講師は「オランダの労働者は、賃金が高くなるので6%あげるというのに4%で良いとした」と肯定的に説明した。畏にはまったのか。集会の基調報告は、新自由主義を強く批判したが、参加者はこの基調講演をどう受け止めたのか今後の感想をみたい気がする。全体会終了後、参加者は学校の困難な課題と職場の大きな期待を背負って分科会会場に向かつて行った。いま、政府の教育再生実行会議は、道徳の教科化、国策に沿った検定強化、教育委員会の廃止など中央集権的な姿勢を強めている。天候は、2日目以降崩れた。

「原発のない福島を！」

県民集会」に参加して

福岡県退教 福岡支部 井形 敏子

郡山・いわき・福島の3会場で同時に開催されたが、私はメイン会場の郡山「ユラックス熱海」に参加した。駅に着いたときは、九

州では経験したことのない横殴りの白い風が吹き、東北の地であることを実感した。「あの日」も雪が降り寒かったといわれているが、

避難した人々の肌身に刺さる寒さは、いかばかりであったことだろうか。3,000人収

容の会場は、県外からの参加者であふれ、通路にも座るぐらいであった。

福岡県・高退教のみなさん

集会は大江健三郎さんの連帯挨拶、それぞれの立場からの5名の現地の人たちの発言は、原発事故のもたらしたもの、東電・政府の対応のひどさ、原発事故が続いていることを告発するものだった。最後の平和大使の高校生の発言は、放射能禍を

次の子どもたちへ残した大人たちへの鋭い突き付けであり、私たちはそれにこたえる責任がある。

翌日は、「フクシマ被災地フィールドワーク」に参加したが、車中でも線量は高く、家屋の脇にまでも、除染土や枯葉を入れた黒や青の袋が野ざらしのまま高く積み上げられていた。南相馬市の萱浜地区の津波被害も見たが、コンクリートの頑丈な防潮堤に立って、その左側からずっと無残に削りとられていたのを目にして、津波の威力に戦慄した。

8日の夜は、福岡県退教の方々と交流し、仮設住宅に避難を余儀なくされている方の話も聞くことが出来た。福岡県教組では、持参した福岡市退教の寄せ書きをお渡しした。現地のみなさんと多く触れることが出来たことに感謝している。

安倍政権は、原発推進を明言し、再稼働させようとしている。九州電力が、最有力候補とされているが、再稼働を絶対に許してはならないと、参加してより強く思った。これから、報告会等で、多くの私たちのために伝えていきたい。

◆ 編集後記 ◆

10月12日(土)、都高教退職者会主催の憲法学習会で、伊藤真氏の講演を聞いた。氏は「一人一票実現運動」の中心メンバーとして精力的に活動する弁護士で、一票の格差是正を目指す裁判の原告団の一員である。彼を含む3人の弁護士が核となつての高裁への訴えで、参議院選挙は「違憲違法」であるとの相次ぐ判決を得るに至ってはいたが、「違憲かつ無効」との判決は出されていない状態が続いていた。講演会で「違憲ではあるが無効ではないという判決がほとんどで、その判決自体が違憲」と論断した、彼の厳しい表情が印象に残る。

しかし、「一票の格差」が最大4・77倍だった昨年7月の参院選をめぐる判決で、11月28日、広島高裁は定数配分規定を違憲と判断し、岡山県選挙区の選挙を無効とする判決を下した。これは全国14の高裁に提起された一連の訴訟で、初めての、画期的な判断だった。判決後の記者会見の一員として登場していた伊藤氏はニコやかな顔を見せていた。

特定秘密保護法・靖国参拝と安倍内閣の暴走が加速化する一方、秘密保護法を廃案へ追い込もうとする動きも日増しに強くなっている。日本の政治情勢を、暗から明へと一大転換させる闘いでの、私たちの役割は大きい。